

苫小牧市立小中学校規模適正化 「現状と課題」 【概要版】

第1節 「現状と課題」の考え方

「苫小牧市小中学校規模適正化基本方針」に定める「望ましい学校規模」を踏まえ、少子化の進行、アフターコロナにおける学びの保障、地域コミュニティの充実等の視点を加え、「望ましい教育環境」の整備を推進するため、本市の現状と課題を整理する。

本資料の位置付け

○学校規模適正化基本方針

望ましい学校規模（適正規模）
 小学校 12～24学級
 中学校 9～18学級

H26.11 学校規模適正化地域プラン

○小・中学校施設整備計画

長寿命化大規模改修
 機能回復（屋根・外壁）
 改築

R2.2 改定（令和2～9年度）

令和3年12月 学校規模適正化「現状と課題」（本資料）

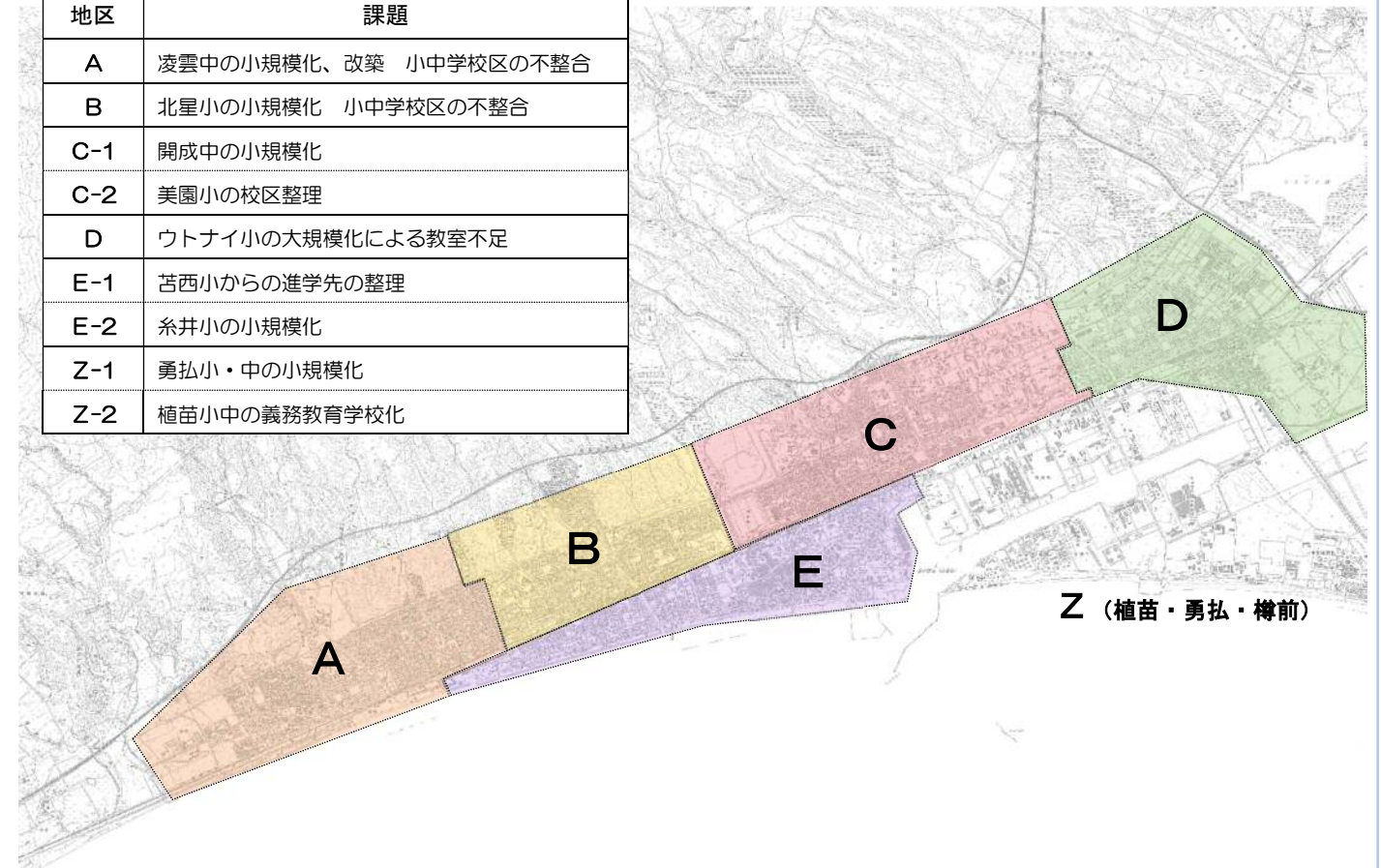
本市の現状と課題を整理し、基本方針に基づく統廃合や通学区域の変更の必要性（地域プラン策定）について検討するための資料とする。

本市全体の現状

- 少子化の進行：令和9年までに約1,500人減少、小中5校が小規模校化の見込み
- 小中一貫・連携教育：小学校6校において進学先の中学校が複数に分かれるため小中の連携に課題
- 地域共同体制：校区と町内会区分の不一致により、地域との連携やコミュニティ・スクール導入に課題

第2節 各地区別課題について

地区	課題
A	凌雲中の小規模化、改築 小中学校区の不整合
B	北星小の小規模化 小中学校区の不整合
C-1	開成中の小規模化
C-2	美園小の校区整理
D	ウトナイ小の大規模化による教室不足
E-1	苫西小からの進学先の整理
E-2	糸井小の小規模化
Z-1	勇払小・中の小規模化
Z-2	植苗小中の義務教育学校化



第3節 課題解決に向けた検討について

課題の解決方法

学校の小規模化・大規模化にはそれぞれメリット・デメリットがあるため、一概に規模適正化を推し進める必要はない。

	小規模校	大規模校
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに目が届き、きめ細やかな指導 各種行事で一人ひとりに活躍の機会 深い人間関係 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方に触れ、切磋琢磨しあえる 多様な学習・指導形態が可能 豊かな人間関係、多様な集団の形成が可能
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方に触れ、切磋琢磨しあう機会が少ない 人数不足により学習・指導形態に限りがある 人間関係の固定化 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの把握が難しくなりやすい 各種行事で一人ひとりに活躍の機会が与えにくい 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい

- ① 学校経営の工夫により各学校規模におけるメリットの最大化、デメリットの最小化を図る
- ② 学校の統廃合や校区の変更で規模適正化を図る

今後のスケジュール案

各地区で抽出した課題の優先度を順位付けし、スケジュールの検討を行う。スケジュール案については、適宜見直しを図る。

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
D ウトナイ小の大規模化	→							
Z-2 植苗小中の義務教育学校化		→						
Z-1 勇払中の小規模化				→				
A 凌雲中の小規模化				→				
E-1 苫西小からの進学先の整理					→			
C-2 美園小の校区整理					→			
B 北星小の小規模化							→	
C-1 開成中の小規模化							→	
E-2 糸井小の小規模化								→

学校・保護者・地域と協議し方向性を決定